

## 会 議 録

会議の名称		令和6年度第2回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時		令和6年10月4日（金）開会 14:30 閉会 16:40		
開催場所		つくば市立小野川小学校図書室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口 直宏（会長）、竹内 崇（副会長） 加藤 千里、鈴木 宏之、柳沢 逸夫、木村 敦至 高野 和直、長久保 翠、村岡 敬子、伊藤 哲司 谷田部東中学校：校長 永井 英夫 教頭 坂 匡浩、 教務主任 清水 研志 小野川小学校：校長 大高 純子、教頭 芳賀 千重 教務主任 村田 晴美 二の宮小学校：校長 高木 素子 教頭 宮田 路子 教務主任 小松 勝之 東小学校：校長 横田 康浩 教務主任 井上 宏実		
	その他	谷田部東中学校：教頭 酒井 洋一		
	事務局	生涯学習推進課参事：山口 健次 生涯学習推進課係長：飯島 遊 社会教育主事：村上 和宏 地域連携教育指導員：酒井 和宏		
公開・非公開の別		<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0人
非公開の場合はその理由		つくば市情報公開条例第5条第1項（個人情報）に該当する情報が含まれるため		

議題	「学校関係者評価の結果から、学園で育てたい児童生徒について」		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 授業参観 4 前回の議事の確認 5 協 議 ・熟議テーマ「学校関係者評価の結果から、学園で育てたい児童生徒について」 6 その他 7 閉 会		

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開 会</p> <p>2 挨 拶</p> <p>3 授業参観 (30 分間)</p> <p>4 前回の議事の確認</p> <p>5 協 議</p> <p>第2回 コミュニティ・スクール協議会の話合いの柱</p> <p>(1) 学校関係者評価の結果から見える、学園で育てたい児童生徒に係るキーワード及び理由</p> <p>(2) 学園で育てたい児童生徒像を目指すスローガン等 (熟議内容)</p> <p>(3) 話合いや発表から得られた情報をもとにした、まとめ等</p> <p>・各グループでの熟議 15:25～16:25 (60 分間)</p> <p>・グループごとの発表 16:25～</p> <p>① 1 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己有用感や地域性をキーワードとした話合い</li> <li>・各学校の児童の雰囲気の違い、個性について</li> <li>・各学校が取り組んでいるものの「人材」「よさ」を地域学校協働活動推進員に支援要請していく。</li> </ul> <p>② 2 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己有用感、立ち直る力、我慢する力の育成についての話合い</li> <li>・教師、児童生徒ともに人の意見に耳を傾ける力、ともに成長していくことの必要性</li> </ul> <p>③ 3 班</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己有用感に焦点をおいた話合い。学園共通の質問項目の検討の必要性。小学生と中学生の捉え方の違い。</li> </ul> <p>→小学生には「夢を持っていますか」中学生には「夢について考えている」や「夢に向かって努力していますか」のような聞き方の変更が必要</p>
--

・「先生の話や友達の見解に耳を傾け、素直に助言を受け入れることができる」の項目は再検討の必要性あり。

・他人と自分との比較により、自己有用感が低下する可能性あり

アンケートをとる際の教師の説明の仕方や、日ごろの認め方の工夫が必要

・学園目標「夢や希望をもち、未来に向かってたくましく生きる児童・生徒の育成」に到達するための手立てを考えることが大切

#### ④ 4班

・学園の共通の質問内容についての話し合い

・素直に助言を受け入れているかいないかの結果に関し、教師と児童の差異

・人とのコミュニケーション不足が考えられる。家族でのコミュニケーションがさらに必要ではないか

・中学校では異年齢で関われる部活動、小学校では異年齢で遊ぶ時間が大事  
そのような時間を意図的に計画立ててとることも大事。異学年でけんかをするのも大事な経験

・大人がもっと子どもを信じる環境の重要性

#### ⑤ 5班

・共通項目「先生の話や友達の見解に耳を傾け、素直に助言を受け入れることができる」について、良い点を伸ばしていけるとよい

・夢や希望についての捉え方が、子どもと親にズレ

親は子どもの頑張りを承認していくことが大切

・最近の主流はタブレット学習。しかし、親は把握しておらず、子どもが家でタブレット学習をしている際、タブレットで遊んでいるのだと勘違いして指導してしまうことがある。子どもを信じたい

・他人とではなく、昨日の自分、過去の自分と比較することが大切

・子どもたちに自信をもたせ、十分役に立っていることを学校でも家庭でも、褒めて認める。PTAからの呼びかけが必要

#### 【質疑応答】

特になし

#### 6 その他

(伊藤委員)

・「お子さんは、夢や希望の実現に向けて努力している」の質問は、1つの質問項目に2つの質問が入っており非常に難しい。「夢や希望をもっているか」と「努力しているか」は別物である。「お子さんは教師の話や友達の見解に耳を傾け、素直に助言を受け入れることができる」の質問でも、「話に耳を傾けているか」と「素直に助言を受け入れているか」は違う。何年か継続してデータを見ていかななくてはいけないため、簡単には変えられないかもしれないが、学年によって考え方が違うので配慮が必要。データをとることは意味があるので、配慮しながら継続していく。

・洞峰学園のPTA組織「洞峰クラブ」を8月に実施。次回は11月30日なので、可能なら学校側も参加してほしい

(樋口座長)

- ・共通の項目を少し増やしていきながら、学園で聞きたいこと、学校で聞きたいことを半分ぐらいにしていけたらよいのではないか。

(永井委員)

- ・先ほどの話で、小野川小だけタイプが違いと話題にでたが、中学校に入ってくるとそれぞれの小学校のよさをうまい具合に出し、3校の良さがブレンドされて、谷田部東中の良さとなっている。中学校としては、どの小学校出身だからとかは、あまり気にしていない。

(事務局)

次回のコミュニティ・スクール協議会は令和7年2月20日(木)、会場は東小学校を予定しています。よろしくお願ひします。

## 7 閉会

本日の協議の内容は以上になります。なお本日の会議の様子や写真について、つくば市ホームページへの掲載を予定しています。(委員、承認)

# 令和6年度第2回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会

日時：令和6年10月4日（金）

14：30～

場所：小野川小学校 図書室（1階）

## 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 授業参観

4 前回の議事の確認

5 協 議

・熟議 テーマ「学校関係者評価の結果から、学園で育てたい児童生徒について」

6 その他

7 閉 会

## 会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会		
開催日時	令和6年5月28日(火) 開会 14:30 閉会 16:30		
開催場所	つくば市立二の宮小学校 NINO ラボ		
事務局(担当課)	教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	樋口直宏(会長)、竹内崇(副会長)	
		加藤千里、鈴木宏之、柳沢逸夫 高野和直、長久保翠、村岡敬子、伊藤哲司	
		谷田部東中学校：校長 永井英夫、教頭 坂匡浩 教務主任 清水研志	
		小野川小学校：校長 大高純子、教頭 芳賀千重 教務主任 村田晴美	
		二の宮小学校：校長 高木素子 教頭 宮田路子 教務主任 小松勝之	
		東小学校：校長 横田康浩、教頭 坂入敏江 教務主任 井上宏実	
その他			
事務局	教育総務課課長：山岡めぐみ 生涯学習推進課参事：山口健次 生涯学習推進課課長補佐：瓜阪絵理名  生涯学習推進課係長：飯島遊 社会教育主事：村上和宏 地域連携教育指導員：酒井和宏		
公開・非公開の別	<input type="checkbox"/> 公開	<input type="checkbox"/> 非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 一部非公開
	傍聴者数	0人	

非公開の場合はその理由	つくば市情報公開条例第5条第1項（個人情報）に該当する情報が含まれるため		
議題	1 学校運営の基本方針について 2 各学校の教育活動の紹介 3 熟議「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」 4 その他		
会議録署名人		確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開会 2 授業参観 3 任命書交付 4 教育長挨拶 5 説明事項 つくば市のコミュニティ・スクールについて 6 会長・副会長の選出 7 協議 (1) 学校運営の基本方針について (2) 各学校の教育活動の紹介 (3) 熟議「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」 (4) その他 8 閉会		

<p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>1 開会</p> <p>事務局：ただ今から、令和6年度第1回 洞峰学園コミュニティ・スクール協議会を開会いたします。</p> <p>はじめに、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則第6条第2項では、「会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。」としております。本日の出席委員数は20名であることから、会議が成立していることをお知らせいたします。</p> <p>会議を進行するに当たり書記を決めたいと思います。事務局案として二の宮小学校 小松 勝之先生にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>参加委員：お願いします。</p> <p>事務局：お引き受けくださりありがとうございます。よろしく申し上げます。</p> <p>初めに授業参観となります。（授業参観）</p> <p>授業参観はいかがだったでしょうか。</p> <p>2 任命書交付</p> <p>事務局：始めに「任命書」の交付をいたします。任命書の交付は五十音順で代表</p>
--

者1名とさせていただきます。なお、森田教育長は欠席となります。代わりまして教育総務課課長 山岡が代理で行います。伊藤委員お越してください。

(「任命書」を伊藤委員に交付)

続きまして、地域学校協働活動推進員の御紹介と委嘱状の交付を行わせていただきます。

洞峰学園で、学校と地域をつなぐパイプ役となる地域学校協働活動推進員を協議した際、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者として木村敦至委員、高野和直委員、竹内崇委員、長久保翠委員、村岡敬子委員、柳沢逸夫委員を洞峰学園から御推薦いただきました。地域学校協働活動推進員設置要項第3条に該当するものとして、「地域学校協働活動推進員」を委嘱させていただきますと思います。委嘱状の交付は、五十音順で代表者1名とさせていただきます。(「委嘱状」を高野委員に交付)

ありがとうございました。お席にお戻りください。

なお、この会議において皆様は、非常勤特別職として任命され任期は1年となり、任期は今年度末までとなります。また、守秘義務等の責務がございます。御留意ください。

皆様の任命書については、机の上にございますのでご確認ください。委員の皆様のご自己紹介に関しては、この後お時間を取らせていただきます。御了承ください。

### 3 挨拶

事務局：続きまして、つくば市教育長森田から挨拶を預かっておりますので、教育総務課課長 山岡が代読いたします。

山岡：森田教育長の挨拶を代読させていただきます。

本日はお忙しい中、第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会に参加していただきありがとうございます。また、委員の皆様におかれましては当協議会の委員を快くお引き受け頂き、深く御礼申し上げます。

本年度、洞峰学園においては、法に基づいた協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」が本格始動します。昨年度1年間の推進会議を通じて、目指す児童・生徒の姿や、学校と地域が子どもたちのためにどのような協力ができるかを、時間をかけて話し合っていたいただいたことと思いますが、その話し合いを基に、より具体的な議論を深めていただければと思います。

コミュニティ・スクール協議会の設置は、ゴールではなく、スタートラインであり、また、すぐ目に見える成果が出るとも限りません。しかし、委員の皆様を合わせ、未来を担う子どもたちのために何ができるのかを考えていくことで、必ず、それぞれの学校の実情にふさわしい地域との連携の在り方が生まれてくるものと感じております。

参考として、つくば市のモデル地域として、令和4年度から先行的に「コミュニティ・スクール」を導入した吾妻学園の取組を紹介させていただきます。吾妻学園では、昨年度、地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、「ようこそ先輩」と題する卒業生や地域住民による授業を、キャリア教育の一環と



して実施しました。既存の枠組みを活用した地域学校協働活動の事例として、参考にしていただければと思います。

複雑化・多様化する社会の中で、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を育成するためには、つくば市教育大綱の理念にもあるように、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもの育ちの場を支えることが必要不可欠となります。委員の皆様におかれましては、つくば市の教育の充実に向け、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、初めての協議会ですので、自己紹介をお願いいたします。（各委員、自己紹介）

#### 4 説明事項

事務局：社会教育主事の村上より「つくば市コミュニティ・スクールについて御説明させていただきます。

事務局(村上社会教育主事)：社会教育主事 村上と申します。よろしくお願いいたします。わたくしのほうからは、

- 1 つくば市の教育が目指すもの
  - 2 コミュニティ・スクールとは
  - 3 つくば市で進めるコミュニティ・スクールとは
- についてご説明いたします。

まず、つくば市の教育が目指すものについて御説明いたします

配付されている教育大綱の冊子を手にとっていただき、1ページをお開きください。つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を送ることを最上位の目標に設定しています。次に7ページをお開きください。いま必要なことの中に、保護者・学校・地域・行政が協力し、社会全体で子どもたちの育ちの場を支えることを位置づけています。

教育大綱に基づいたコミュニティ・スクールの導入をすることにより、今後地域の多くの人々が学校づくりに参画し、地域と一体となり、地域とともにある学校づくりを進めていきたいと考えています。つくば市の学校教育を所管している学び推進課からは、「学び推進方針」を学校に示しています。みんなが幸せを実感できる学園・学校・幼稚園にするために、今年度特に意識していることは、子どもたちの「自己決定」ができる環境を整えていくことです。また、学び推進課では「伴走から自走」というスローガンのもと、各学校が生き生きと自走していけるように日々関わっています。

続いて、コミュニティ・スクールについて御説明いたします。具体的にコミュニティ・スクールとはどのようなものかをご説明いたします。コミュニティ・スクールとは、一言で言いますと「地域とともに子どもを育む学校」と言えます。コミュニティ・スクールのコミュニティは地域住民・保護者・学校であり、それらが、力を合わせて子どもたちの成長を支えていく学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでいます。踏み込んだ話をさせていただきますと、つくば市ではコミュニティ・スクール協議会という話合いの場を設置している学校をコミュニティ・スクールと呼んでいます。

洞峰学園は今年度、協議会と言って、法に位置付けられたコミュニティ・スクールの本格設置となります。

スライドでお示ししているのが、コミュニティ・スクール協議会の様子です。右上、校長先生が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明をしています。中段、下段の写真、熟議を行っています。

さて、それではなぜコミュニティ・スクールが必要なのでしょう。現在、学校では「いじめ、不登校」「教員の業務量増加」、地域では「地域社会における支え合いやつながりの希薄化」など、様々な課題が挙げられます。また、新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有することが大切であると書かれています。

これらのことから、学校と地域の課題を解決するために、学校と社会が目標を共有したり、地域と学校が連携して幅広い視点で子どもたちの成長を支えたりする必要があるのです。

それでは、具体的につくば市で進めるコミュニティ・スクールについてご説明いたします。つくば市コミュニティ・スクールには、スライドでお示している4つの機能があります。

①の機能として、学校運営の基本方針についての承認があります。

学校運営協議会では第1回目に学園長・学校長が学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明を行います。その基本方針に対して委員の皆様から承認を行うことからコミュニティ・スクール協議会がスタートしていきます。ただし、学校運営の責任者は校長であり、コミュニティ・スクール協議会が校長の代わりに学校運営を決定・実施するものではありません。

②の機能としては、学校運営に意見を述べるということです。これから始まるコミュニティ・スクール協議会では、皆さんの様々な視点から御意見を頂ければと思っています。

③の機能として教職員の任用について意見を述べることができます。教職員の任用とは、学校とコミュニティ・スクール協議会が実現しようとする教育目標等に適った人材を求めることです。例えば、学年主任ができるリーダー性のある教員や外国語活動に力を入れたいので、授業力のある教員を求めることなどです。

④の機能として、学校評価があります。委員の皆様と学校の課題について共有したり学校評価について話し合ったりということをしていきます。

先ほども申し上げましたとおり、洞峰学園は今年度協議会という法に基づいた本格設置となります。

委員の立場としても特別職の地方公務員となり、スライドにお示ししているような責任のある立場となっていくしますので、御協力をお願いいたします。

先ほど、「熟議」という言葉が出てきましたので、「熟議」について御説明いたします。「熟議」とは、どのような子どもを育てたいのか、何を実現したいのか、という目標・ビジョンを共有するために、「熟慮」と「議論」を重ねることを言います。ひとことで言うと「よくよく、話し合う」ということです。

熟議では、テーマに対して、委員それぞれの考えを付箋に記し、模造紙に貼

り付けていくというスタイルが多いです。熟議に参加する委員の方が、必ず意見を会議に反映させてほしいという意図のもとこのようなスタイルをとっています。

スライドでお示ししているのは、コミュニティ・スクールを自転車に例えたイメージ図です。自転車で例えるならば、協議会で話し合った内容が前輪およびハンドルとなり、「育てたい児童・生徒像」やコミュニティ・スクールの在り方などの方向性を決める役割を担っています。そして後輪には、地域学校協働活動が位置付けられます。地域学校協働活動とは、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動のことです。コミュニティ・スクールでは、前輪の協議会で方向性が決まったものに対して、それを後押しするように地域と学校が連携して様々な活動を行っていきます。この地域と学校との連携をスムーズに行うのが、地域学校協働活動推進員の役割です。学校の教育活動に対して地域学校協働活動を進めていくことで、この自転車がスムーズに進むようになります。自転車がスムーズに進むようになるときは、今まで以上に学校と地域が連携し、学校を核とした地域づくりにつながっていくはずで

す。地域学校協働活動の例を一つ御紹介いたします。昨年度、吾妻学園では、「ようこそ先輩」という学習において、ゲストティーチャーを地域学校協働活動推進員の方がコーディネートした授業を行いました。このように、地域学校協働活動が活発になると、地域の方々の関わりが、児童生徒の幅広い視野をもつことにつながります。また、地域の方々と関わることで、学校で学んでいることが社会でどのように役立っているかを理解することにもつながります。これまでは先生が中心となってコーディネートしていたのが、今後は地域の方の力も借りて成立するようになっていきたいと思います。新しいことをやらなくてもよいのです。運営協議会の中で、何が必要か、何をしていくべきかについて地域と学校が熟議し、ともに作り上げていくこと大切です。既存のものをベースに、まずは、「学校理解」「地域理解」から進めていければと思います。

今日お伝えしたいことをまとめます。

- ①つくば市教育大綱では、一人ひとりが幸せな人生を最上位の目標としていること
- ②コミュニティ・スクールは地域とともに子どもを育てる仕組みであること
- ③つくば市のコミュニティ・スクールには4つの機能・役割があること
- ④熟議を通して皆が共有することが大切であるということ
- ⑤地域と学校が連携した様々な活動、地域学校協働活動が始まることです。

つくばの未来の創り手となる子どもたちのために御協力をよろしくお願いたします。以上になります。

事務局：ただ今の件につきまして、意見や質問はありますか。（意見・質問無し）

## 5 会長・副会長の選出

事務局：協議の前に、会長と副会長の選出を行いたいと思います。選出につき

ましては、つくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の第5条第2項に「会長及び副会長は、委員の互選により定める。」とあります。

事務局としては、昨年度、座長として活動していただいた樋口委員、推進会議の構成員として活動していただいた竹内委員は引き続き協議会委員になっていただいているので、会長を樋口委員に、副会長を竹内委員にお願いしたいと提案させていただきたいと思っております。皆様いかがでしょうか？

参加委員：（拍手）

事務局：それでは、お二方よろしくお願ひいたします。

## 6 協議

### (1) 学校運営の基本方針について

樋口会長：それでは、各学校運営の基本方針、いわゆるグランドデザインの説明及びグランドデザインを受けての特色ある教育活動について、各学校よりご説明をお願いします。

小野川小学校（大高校長）：小野川小学校グランドデザインの説明

・昨年度の学力診断テスト結果を受けて要旨を捉える力、目的や意図に応じて伝える力、相手に伝わるように話の構成を考える力に課題がある。

- ・夢や希望をもって未来に向かって生きることが難しい。
- ・何のために学習をしているのかを大切にしていきたい。
- ・自主学習の変革、自分に適した学習方法の開拓を進めていく。
- ・リーダーシップを発揮する場面を増やしていきたい。自分なりの考えをもっている児童は多い。
- ・何かしら学校の力になりたいと考える児童もいる。
- ・児童の意見・アイデアを生かす学校づくり。
- ・「おの」ずとかんがえ 「が」んばれば 「わ」かってくるよ
- ・教職員が「できる」ことが、子どもたちに伝えられる前提である。
- ・サステナブルな働き方、ワークライフバランスを考えた働き方を進める。

二の宮小学校（高木校長）：二の宮小学校グランドデザインの説明

- ・この学校でよかったと思える楽しい学校を目指している。
- ・笑顔と元気、対話で学ぶ楽しい学校にしていきたい。
- ・にこにこ、のびのび、みんなでみとめあい、やりぬく心さいごまでを大切にしたい。
- ・対話、ルールメイキングの重視
- ・子どもたちが対話できる機会を教師が設ける
- ・教科担任制を推進し、1人の子どもに関わる教師を増やす。
- ・学校として不足している部分をコミュニティ・スクールで補いたい。

東小学校（横田校長）：東小学校グランドデザインの説明

- ・課題…聞く力。伝えることはできるが、相手の考えとの折り合いをつけるこ

とが課題 → 傾聴を大切に「聴く」をベースに教育活動を見直す。

・「自分たちの生活をよりよくするために、他人と協働しながらいかに最適解を見つけるか」に力を入れる。

・みんなでよりよい学校生活をつくる→「自分達で」よくしていく。

・互いの価値観を尊重しながら解決策を見つける。

・「みんなが楽しい学校」がテーマ

・自分達にどんなことができるかを2年生以上で考えている。

・宿題を自分で決める。

・学校支援ボランティアを活用し、授業に入ってもらっている。

谷田部東中学校（永井校長）：谷田部東中学校グランドデザインの説明

・3年前の生徒の半数が「夢や希望を持ってない」と回答している。

・コロナが明け、少しずつ「夢や希望を持っている」生徒の割合が上がっている

・自分だけ頑張ればよいという考えの生徒が多い印象がある。

・友達とコミュニケーションをとる→対話を核とした教育活動を行っていききたい。

・夢や目標をもちつつあるが、やり抜こう、さらに高めようという気持ちが弱い→非認知能力を高めるために独自の「生活ノート」を作成

## (2) 各学校の教育活動の紹介

小野川小学校（芳賀教頭）：小野川小学校の説明

・元気いっぱいな子ども

・地域との連携も強い→1～4年生での芋苗、5・6年生での田植え

・今後、餅つき体験、地域への感謝の会を実施予定

二の宮小学校（小松教務主任）：二の宮小学校の説明

・地域・保護者の仕事紹介等、キャリア教育での関わり

・保護者ボランティア（日本語指導、読み聞かせ、二の宮工務店等）を積極的に活用

東小学校（坂入教頭）：東小学校の説明

・学校支援ボランティア、家庭科調理ボランティアの活用

・昨年度は72名のボランティアが参加

谷田部東中学校（坂教頭）：谷田部東中学校の説明

・生徒は全体的に落ち着いて生活している

・登校渋り、不登校生徒に関する課題が見られる。→ソーシャルスキルトレーニングの実施

・部活動の地域完全移行を目指している

・職業体験等で地域と連携をしている

樋口会長：先生方、御説明ありがとうございました。先ほど教育局から説明がありましたように、コミュニティ・スクール協議会の機能の一つに、「校長が作成する学校運営の基本方針の承認」があります。委員の皆様にグランドデザインへの承認をお願いしたいと思います。令和6年度学園・各校のグランドデザインを御承認いただける方は拍手をお願いいたします。

参加委員：(拍手)

樋口会長：ありがとうございました。校長先生方におかれましては、本内容にて学校運営をお願いいたします。

### (3) 熟議

樋口会長：続いて、熟議に移りたいと思います。ファシリテーターを谷田部東中学校の坂教頭先生をお願いしてよろしいでしょうか。

坂教頭：はい。よろしく申し上げます。

樋口会長：お引き受けくださりありがとうございます。では、坂教頭先生よろしくをお願いいたします。

坂教頭：熟議のテーマは「学校評価をもとに学園の共通課題を考える」です。前回の会議で、委員の方から「学園内の学校で、共通の評価項目があるとよい」という意見をいただきました。そこで、学園で共通した学校評価アンケートの項目を考えていただきたいと思います。熟議の時間は16時20分までにお願いします。

(各グループでの熟議25分間)

樋口会長：熱心なご協議ありがとうございました。それでは、各グループで協議されたことの発表をお願いいたします。

#### グループ1

- ・夢、希望をもってやり抜く力
- ・誰かの役に立っているという「自己有用感」を高める

#### グループ2

- ・自己有用感、自己肯定感の向上
- ・自分の考えに固執、相手の意見を認められない

#### グループ3

- ・「みんなの役に立ててうれしい」が低い…小野川小・二の宮小
- ・新しい項目「周りの人に、ありがとうと言われて嬉しいと思う」の追加
- ・新しい項目「自分がクラスの役に立てて嬉しいと思う」の追加
- ・失敗する機会を増やしてあげたいが、安全面を考えると保護者の理解も必要
- ・ルールメイキングの評価は高いが、保護者や児童の否定的回答10%の理由も考えたい→もしかしたら「自分はルールメイキングで役に立てなかった」と思っているかもしれない

・「谷田部東中への進学を楽しみにしている」→谷田部東中に進学している児童と受験を考えている児童とが混在している部分をどのように評価するか

#### グループ4

- ・自己有用感を測る評価項目はどれか、各学校で再確認する必要
- ・周囲の子どもの目を意識する児童生徒が多い

#### グループ5

- ・役に立っていることをどのように自覚させるか
- ・短期的な結果を求めるのではなく、長い目で教育活動を行う
- ・学校のために活動したいという地域の方を、いかに発掘していくか

坂教頭：貴重な御意見ありがとうございました。この結果を学園で協議して、学校評価に反映していきたいと思います。本日はありがとうございました。

樋口会長：発表者の皆さん、ファシリテーターの坂教頭先生ありがとうございました。今年度の評価項目づくりに生かしていただければと思います。最後に委員のみなさんから何かありますでしょうか。

宮田教頭：今後のコミュニティ・スクール協議会の予定です。第2回目は、令和6年10月4日(金)14:30から小野川小学校で行います。第3回目は、令和7年2月12日(水)14:30から東小学校で行います。

樋口会長：それでは、進行を事務局へお返しいたします。皆様、スムーズな運営にご協力いただきありがとうございました。

事務局：樋口会長、協議進行、ありがとうございました。本日の会議の内容は以上となります。

また、お手元に「つくば市コミュニティ・スクール評価ガイドライン」を配布させていただいております。こちらは、市教育委員よりコミュニティ・スクールの運営にあたり念頭においていただきたいと示されたものです。チェック項目について御確認いただければと思います。提出を求めるものではございません。折々において御活用いただければと思います。

なお、本日の会議の様子を、つくば市教育委員会ホームページにて写真を掲載させていただきたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(委員、承認)

以上をもちまして、令和6年度第1回洞峰学園コミュニティ・スクール協議会を閉会いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。